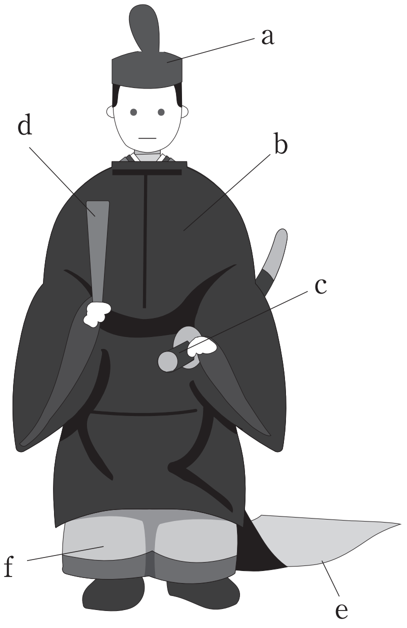
第五講　古文常識「正装」／「恋愛」（『伊勢物語』　初冠）

〈読解練習〉

昔、男、初冠（うひかうぶり）して、平城（なら）の京、春日の里に、しるよしして、狩りに往にけり。

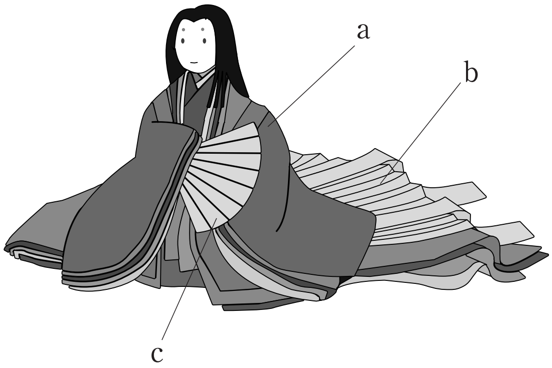
★**初冠**＝**男子**が成人して、初めて冠をつける儀式（いわゆる「　　　　」）。「　　　」「冠」とも。
十二歳～十六歳くらいに行った。

★**裳着**（もぎ）＝**女子**が成人して、初めて裳を着る儀式。十二歳～十四歳くらいに行った。
「髪上げの儀式（髪を後ろで束ねてたらす髪型にする儀式）」も同時に行う。



a　冠
b　袍
c　太刀
d　笏（しゃく）
e　裾（きょ）
f　袴

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。



a　唐衣（からぎぬ）

b　裳（も）

c　扇

●しる

❶【　　・　　】治める・領有する

❷【知る】理解する

❸【知る】世話をする

❹【知る】交際する

●よし【　　】

❶由緒・由来　❷手段・方法　❸理由

❹風流　❺～とのこと　❻

❼そぶり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。この男、かいま見てけり。

●なまめく【艶く】
❶若々しく美しい
❷優美だ・上品だ
❸物静かで落ち着いている
❹色っぽくふるまう

関連　なまめかし【艶かし】❶若々しい　❷優美だ　❸色っぽい

●はらから【同胞】
❶母親が同じ**兄弟姉妹**。転じて、一般に兄弟姉妹。

★かいまみ【垣間見】＝物のすき間からこっそり**のぞき見ること**。

関連　かいまみる【垣間見る】❶物のすき間からこっそりとのぞき見る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈恋愛作法〉①

出会い　**「垣間見」**

貴族の女性は、基本的に部屋の中で過ごす。
男性に姿を見られないように、**御簾**（みす）（すだれ）や**几帳**（きちょう）（つい立て）の奥にいる。

⬇

アプローチ　**「懸想文」**（けそうぶみ）＝「　　　　」

手紙の中に「和歌」必須。基本的には使者に持って行かせる。
直接女性には渡さず、女性にお仕えしている女房に渡してもらうようにお願いする。

⬇

女性もＯＫの場合⇓**「返歌」**がある

お断りの返歌をする女性もいるが、無視されるよりはマシ。

女性が断固拒否の場合⇓「無視」

見向きもせずに、受け取ることすら拒否する場合も。

⬇

交際開始　**「文のやりとり」**

男性が、女性からの返歌に感動して、文のやりとりが開始されたら交際スタートと考えてよい。

★貴族女性の必須教養＝「　　　」「　　　」「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

思ほえず、ふる里に、いとはしたなくてありければ、心地惑ひにけり。男の、着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。その男、(注)しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

　春日野の若紫のすりごろもしのぶの乱れ限り知られず

となむ(注)追ひつきて言ひやりける。ついでおもしろきことともや思ひけむ。

（注）しのぶずり…摺り衣（すりごろも）〔山藍や露草などの汁を染料として模様をすり出した衣服〕の一種。今の福島県信夫（しのぶ）郡から産出される忍草の茎や葉で、乱れた模様を布に摺りつけたもの。

追ひつきて…すぐさま。

●ふるさと【古里・故郷】

❶旧都

❷生まれ故郷

❸以前に住んでいた土地・古いなじみの地

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●はしたなし【端なし】
❶中途半端だ・不釣り合いだ
❷体裁が悪い・みっともない
❸そっけない
❹（雨などが）はげしい

●ついで【序】
❶物事の順序・次第
❷機会

★「やる」⇕「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

陸奥の（注）しのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに

といふ歌の（注）心ばへなり。昔人は、かく（注）いちはやきみやびをなむしける。

（『伊勢物語』）

（注）しのぶもぢずり…「しのぶずり」に同じ。
心ばへなり…ここでは「心持ち・趣意を取り入れたものである」の意味。
いちはやき…情熱的な。

●V＋そむ【　　　】＝～しはじめる。

★「六歌仙」＝平安時代初期の歌の名人六人の称。
大伴黒主（おおとものくろぬし）・在原業平・文屋康秀（ふんやのやすひで）・僧正遍昭（そうじょうへんじょう）・小野小町・喜撰法師（きせんほうし）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈恋愛作法〉②

あふ【会ふ・逢ふ・合ふ】「深い関係になる」

男性が夜に女性の部屋に逢いに行く。

朝、明るくなりきる前〔鳥の鳴き声が合図〕に帰るのがマナー。

↓

逢った後、手紙必須 **「後朝の文」**（　　　　のふみ）

帰り道か帰宅後（早ければ早いほど愛情と誠実さの証）、手紙を女性に送るのがマナー。

↓

「結婚」の手続き　男性が女性の部屋に**三日連続で通えば結婚成立**

女性にとって、三日目に男性が来るか来ないかは超重要事項！

↓

親への紹介 **「所顕し（ところあらはし）」**

三日目の朝は帰らずに、そのまま女性の親に対面して挨拶。結婚したことを披露する。

↓

結婚形態 **「通ひ婚」**が多い

男性が女性の家に通う結婚形態（「　　　」のため）が多い。

ただし、現代と同じように一番特別な女性とは同居している場合もある。

※三年連続で通ってこなければ「離婚成立」と見なされた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「恋愛」系の単語

＊多義語の場合も、ここでは「恋愛」系の意味のみ掲載しているので要注意！

●よばふ【呼ばふ】
求婚する

●あふ【会ふ・逢ふ・合ふ】
男女が深い関係になる
結婚する

●あはす【合はす】
夫婦にする・結婚させる

●みる【見る】
男女が深い関係になる
夫婦となる・妻とする

●みゆ【見ゆ】
(女性が) 結婚する・妻となる

●みす【見す】
とつがせる・結婚させる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●かたらふ【語らふ】
男女が言い交わす

●かよふ【通ふ】
男性が女性のもとへ行く

●すむ【住む】
夫として女性のもとに通う

●ちぎる【契る】
夫婦の関係を結ぶ

●ちぎり【契り】
因縁
男女・夫婦の縁

●ちぎりをむすぶ【契りを結ぶ】
男女が深い関係になる

●そでをむすぶ【袖を結ぶ】
男女が深い関係になる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●さるべきにや（ありけむ）
そうなるはずの宿縁だったのであろうか

●よのなか【世の中】
男女の仲・夫婦仲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①　「京に具覚房とてなまめきたる遁世（とんせい）の僧…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　よく知られた
イ　上品な
ウ　悩ましい
エ　力のある
オ　分別のある

②　「昼ははしたなき心地して、暮れてぞのぼる。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　腹立たしい気持ち
イ　不思議な気持ち
ウ　愉快な気持ち
エ　みっともない気持ち
オ　待ち遠しい気持ち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

(注)継母なりし人は、宮仕へせしが下りしなれば、思ひしにあらぬことどもなどありて、世の中うらめしげにて、ほかにわたるとて～（以下省略）

注　継母…作者の父孝標の妻として共に東国に下ったが、帰京後、離別した。

ア　夫婦仲　　イ　世間　　ウ　現世
エ　時代　　オ　人間関係

④　「小野小町」は『古今和歌集』序で言及されている六歌仙のひとりとされているが、この六歌仙には他に誰がいるか。該当する人物をひとり、次の中から選べ。

ア　紀貫之　　イ　在原業平　　ウ　清少納言
エ　藤原定家　　オ　大伴家持

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講

〈現代語訳〉

　昔、ある男が、元服して、奈良の都の、春日の里に、領地があった縁で、鷹狩りに行った。その里に、たいそう若々しくて美しい姉妹が住んでいた。この男は、（その姉妹を）物のすき間からこっそりとのぞき見をした。思いもよらず、（このような寂れた）昔の都に、たいそう不釣り合いで（美しい姉妹が）いたので、（男は）心が乱れてしまった。男が、着ていた狩衣の裾を切って、（それに）歌を書いて贈った。その男は、しのぶずりの狩衣を着ていた。

　　春日野の…＝春日野の若々しい紫草で染めたこの衣のしのぶずりの模様が乱れているように、（私の恋しのぶ心は）限りなく乱れています。

と、すぐさま（歌を）詠んで贈った。事の成り行きを趣があると思ったのだろうか。（この歌は、）

　　陸奥の…＝陸奥のしのぶずりの乱れ模様のように、あなた以外の誰のために心が乱れはじめた私ではないのに。

という歌の趣意を取り入れたものである。昔の人は、このように情熱的な風流な振る舞いをした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

① 「なまめく」は重要単語で、「若々しく美しい」「上品だ」などの意味。よって、正解はイ。

② 「はしたなし」は重要単語で、「中途半端だ」「みっともない」などの意味。よって、正解はエ。

③ 「世の中」は重要単語で、「男女の仲」「夫婦仲」などの意味。「世間」という意味もあるが、ここでは、注釈の「離別した」という情報もヒントにし、文脈上も「夫婦仲がいかにも残念そうで、他に出て行った」と訳してもおかしくないことから、「夫婦仲」の意味である。よって、正解はア。

④ 「六歌仙」とは、大伴黒主・在原業平・文屋康秀・僧正遍昭・小野小町・喜撰法師の六人。よって、選択肢の中ではイが正解。

〔解答〕

①　イ　②　エ　③　ア　④　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。